

「デジとしよ信州」の運営状況について

令和5年11月21日（火）

市町村と県による協働電子図書館運営委員会

令和4年8月のサービス開始後、1年が経過した市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」の運営状況についてご報告します。

1. 運営状況（令和5年9月末時点）

【利用登録者数】 14,165 名

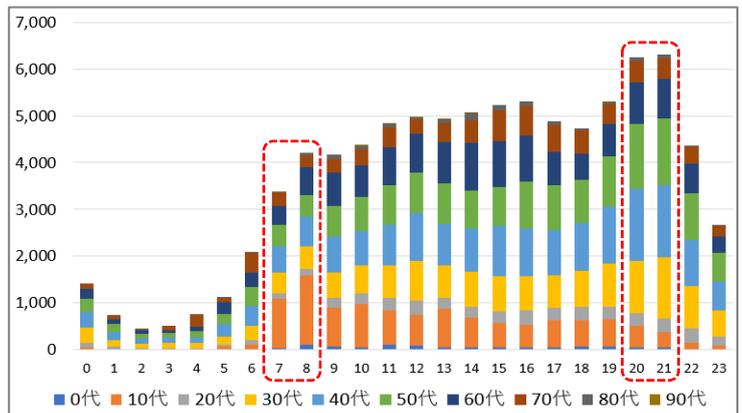
- ・ IDを一括登録する学校の事例も出ている

【蔵書数】 計 22,276 冊

- ・ 購入(有償)コンテンツ：11,035 冊
- ・ 児童書読み放題パックを導入（100 冊）
※ 宝くじ助成 1 千 8 百万円を活用
- ・ 青空文庫(無償)コンテンツ：11,196 冊
- ・ 各市町村が電子化した地域資料：45 冊

【貸出数】 88,086 冊

- ・ 最多貸出年代：40代(20%)
次いで50代(19%)、30代60代(16%)、10代(13%)
- ・ 最多貸出時間：20時、21時代
7時、8時代：10代の利用が最も多い
- ※ 電子書籍ならではの利用スタイル
- ※ 高齢の方から若い年代まで、新聞投書や SNS で喜びの声



(年代・時間帯別の貸出状況)

【新サービス】 視覚障害の方向け 「アクセシブルライブラリー」導入



障害者手帳をお持ちの方専用。電子書籍を音声自動読み上げで提供。読書バリアフリー推進の取組の一環。

- ※ 盲学校や長野県視覚障害者福祉協会とも連携

2. 各市町村における活用状況の一例

学校との連携

佐久市

デジタルの特長を活かした学び



【野沢小】

- ・ 英語の電子書籍を使い、ネイティブスピーカーによる読み上げ機能を活用して、ヒアリングとスピーキングを練習

高森町



子どもたちは紙の本と電子書籍を必要に応じて自発的に使い分け



【高森北小】

- ・ 1年生は全員が町立図書館に利用登録
- ・ 3年生になると、全員が「デジとしよ信州」にも登録
- ・ 地域資料の電子化にも力を入れる

地域との連携

天龍村



- ・「天龍村暮らし安心 ICT ネットワーク事業」で、希望する 65 歳以上の住民および障害をお持ちの方にタブレットを配布
- ・「緊急」「ラジオ」等のアプリと共に、「デジとしよ信州」専用アプリも予めインストール

大桑村

- ・ 村立図書館の開館（R4.9）にあわせて「デジとしよ信州」の広報も同時にスタート
- ・ 相乗効果により、10 人に 1 人以上（11.07%）の住民が利用登録（77 自治体でトップの利用登録率）

生坂村



- ・ 村出身の偉人の伝記漫画を電子書籍化して「デジとしよ信州」に搭載
- ・ 『村誌』も電子化。地域の魅力発信につなげる



3. 外部からの評価

- 全国知事会「先進政策バンク」：令和 5 年度「先進政策大賞」、「デジタル・ソリューション・アワード大賞」受賞
- （一社）プラチナ構想ネットワーク：第 11 回プラチナ大賞「優秀賞 地域パートナーシップ賞」受賞
- メディア等への掲載多数
 - ・ 10/5 日本経済新聞（地域のチカラ街のイノベーション「電子図書館、朝読書・授業に」）
 - ・ 『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2023』（電子出版制作・流通協議会）に特集掲載 他

4. 今後の重点取組事項

- **学校教育との連携 + 多様な学びの場における活用検討**
 - ・ 希望する自治体・学校と連携して、教材利用等授業での活用、学校図書館との連携などの方策を検討
 - ・ 教育支援センター（中間教室）、フリースクール等、さまざまな居場所における学びの環境充実の検討
- **読書バリアフリーのさらなる推進**
 - ・ 福祉関係団体や特別支援学校等と連携し、「デジとしよ信州」（アクセシブルライブラリー含む）を全県的に推進
- **地域資料の充実**
 - ・ 学校の副読本や地域を学ぶ資料等、自治体が著作権を持つ資料の電子書籍化の方策を検討
 - ・ 地方出版物のデジタル化への働きかけ

※利用実績やニーズ、出版動向を見ながら、必要な蔵書構成、財源（市町村負担金等）を引き続き検討
R 5 事業費：27,936 千円（市町村振興協会助成金 18,000 千円、市町村負担金 8,000 千円、長野県 1,936 千円）